

令和6年度

岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査（全県調査）結果

～現場に役立つ教育センターを目指して～



【目次】

I 実施概要

- 1 調査目的
- 2 調査対象
- 3 調査時期
- 4 調査内容
- 5 調査方法

II 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査・分析（対象：小・中・義務教育学校・高・特支）

- 1 回答者に関する調査
- 2 研修業務推進に関わる調査
- 3 支援業務推進に関わる調査
- 4 研究業務推進に関わる調査
- 5 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望

III 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査・分析（対象：幼稚園・保育所・認定こども園）

- 1 回答者に関する調査
- 2 研修業務推進に関わる調査
- 3 研究業務推進に関わる調査
- 4 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望

I 実施概要

1 調査の目的

教育現場のニーズを把握し、令和7年度以降の総合教育センターにおける研修・支援・研究業務の推進に役立てる。

2 調査の対象

- | | |
|---|-------------|
| (1) 公立幼稚園 (18 園) | |
| (2) 市町村立小・中・義務教育学校 (小：265校、中：142校、義務教育学校：1) | |
| (3) 県立中学校 | (1 校) |
| (4) 県立高等学校 | (64校) |
| (6) 市立高等学校 | (1 校) |
| (7) 県立特別支援学校 | (15校) |
| (8) 国立幼・小・中・特別支援学校 (4 校) | |
| (9) 私立幼稚園 | (37園) |
| (10) 認定こども園 | (166 園) |
| (11) 保育所 | (249 園) |
| | 計 963 校 (園) |

3 調査時期

令和7年2月

4 調査内容

- (1) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査 (対象：小・中・義務教育学校・高・特支)
- ア 回答者に関する調査 (【質問1】～【質問3】)
 - イ 研修業務推進に関わる調査
 - (ア) 研修講座の活用について (【質問4】～【質問7】)
 - (イ) 研修内容に対するニーズについて (【質問8】)
 - (ウ) 研修情報の入手方法について (【質問9】～【質問11】)
 - ウ 支援業務推進に関わる調査
 - (ア) 相談に対するニーズについて (【質問12】)
 - エ 研究業務推進に関わる調査
 - (ア) 研究成果物の活用について (【質問13】・【質問14】)
 - (イ) 研究成果物に入手方法について (【質問15】・【質問16】)
 - オ 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望 (【質問17】)
- (2) 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査 (対象：幼稚園・保育所・認定こども園)
- ア 回答者に関する調査 (【質問1】～【質問3】)
 - イ 研修業務推進に関わる調査

- (ア) 研修講座の活用について (【質問4】～【質問7】)
- (イ) 研修内容に対するニーズについて (【質問8】・【質問9】)
- (ウ) 研修情報の入手方法について (【質問10】～【質問12】)
- ウ 研究業務推進に関わる調査
 - (ア) 研究成果物の活用について (【質問13】)
 - (イ) 研究成果物に入手方法について (【質問14】・【質問15】)
- エ 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望 (【質問16】)

5 調査方法

Web 上のアンケートフォームを利用して行った。

6 回答数及び回答率

校種	調査対象数	回答数	回答率	R4 調査回答率
幼稚園等	470	200	42.3%	(80.5%)
小学校・義務教育学校前期	267	267	100%	100%
中学校・義務教育学校後期	145	145	100%	100%
高等学校	65	65	100%	100%
特別支援学校	16	16	100%	100%

※幼稚園等の調査対象の拡大について

前回の令和4年度調査ではセンターで研修を受講した実績がある200園であったが、今回調査から岩手県内すべての園を対象に実施した。

Ⅱ 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査・分析（小中高特）

1 回答者に関する調査（【質問1】～【質問3】）

【質問1】 学校名：貴校の学校名を入力してください。

【質問2】 職名：回答者の職名・校務分掌を次から選んで回答してください（複数回答可）。

回答内容	小	中	高	特支	合計
校長	48	27	5	0	80
副校長	153	56	54	10	273
総務主任	0	0	1	0	1
主幹教諭	4	5	0	0	9
指導教諭	4	0	0	0	4
教務主任	9	6	12	0	27
研究主任	61	59	0	5	125
その他	3	4	2	0	9

【質問3】 職名：「質問2」で「その他」を選択した場合には、校務分掌の名称を入力してください。

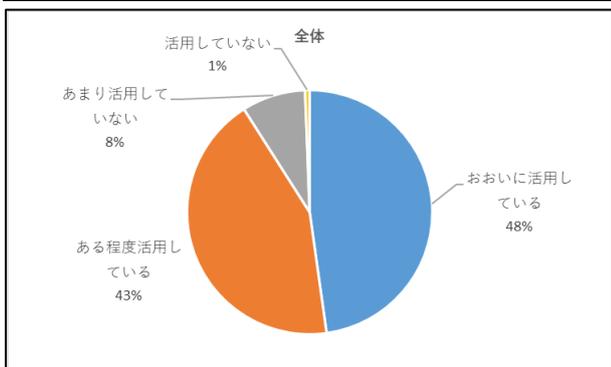
小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修担当 ・ 主題研究 ・ 現職教育担当 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修担当 ・ 生徒会担当 ・ 教務 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導主任 ・ 進路指導主任 ・ 保健部主任 ・ 図書部主任 ・ 教育相談部主任 ・ ネットワーク管理主任 ・ 各教科主任 	

2 研修業務推進に関わる調査

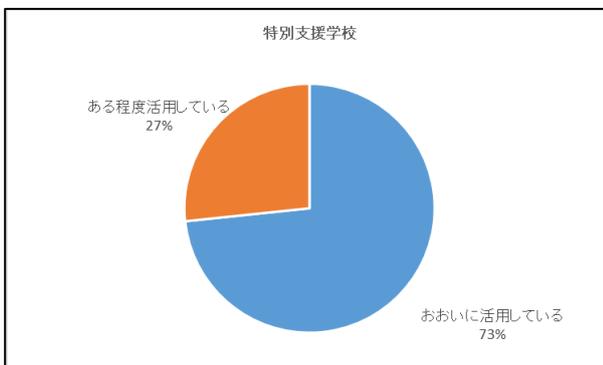
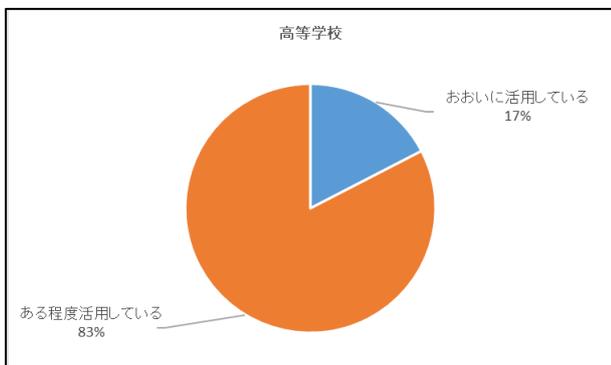
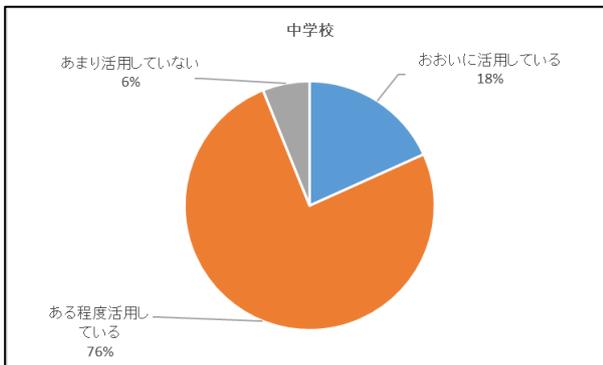
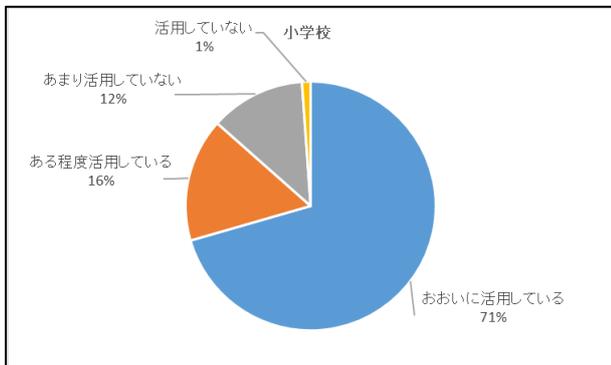
(1) 研修講座の活用について【質問4】～【質問7】

【質問4】研修内容の活用：回答者からみて、貴校教職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。次の中から1つ選んで回答してください。

回答内容	小	中	高	特支	合計	割合	R4	R2
おおいに活用している	189	27	12	11	239	47.8%	19.1%	17.0%
ある程度活用している	43	112	57	4	216	43.2%	55.3%	65.9%
あまり活用していない	33	9	0	0	42	8.4%	16.1%	16.1%
活用していない	3	0	0	0	3	0.6%	2.3%	1.3%



《校種別の割合》



【質問4】考察

これまでの調査と比較して、活用しているとの回答が増加し、どの校種でも9割程度となっている。

【質問5】活用場面：「質問4」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみお答えください。どのような研修内容を貴校で活用していますか。以下の具体的内容から選んで回答してください（複数選択可）。（回答数の多かった上位5項目を示す。）

1 小学校

回答内容	回答数	割合	R4	R2
教科研修	167	20.0%		
特別支援教育	96	11.5%	16.7%	17.5%
ICTを活用した教科指導	81	9.7%	4.6%	(14.5%)
自己研修	59	7.1%		
生徒指導	59	7.1%	3.9%	17.1%

※R4～R2のICT活用は情報教育とプログラミングを合算したものの。空欄は調査項目になかったものの。

2 中学校

回答内容	回答数	割合	R4	R2
教科研修	111	21.1%		
ICTを活用した教科指導	75	13.4%		
特別支援教育	49	8.8%	5.3%	9.8%
自己研修	42	7.5%		
生徒指導	41	7.3%		

※空欄は調査項目になかったもの。斜線は以前の項目で上位になかったもの。

3 高等学校

回答内容	回答数	割合	R4	R2
教科研修	54	17.1%		
教育相談	44	14.0%	19.7%	15.8%
ICTを活用した教科指導	39	12.4%		
特別支援教育	23	7.3%	14.5%	18.4%
生徒指導	22	7.0%		

※空欄は調査項目になかったもの。斜線は以前の項目で上位になかったもの。

4 特別支援学校

回答内容	回答数	割合	R4	R2
特別支援教育	12	13.5%	17.3%	29.4%
教育相談	11	12.4%	26.0%	29.4%
情報教育	8	9.0%	30.4%	(11.8%)
教科研修	7	7.9%	13.0%	
自己研修	7	7.9%		

※R2の情報教育は、情報教育とプログラミングを合算したものの。空欄は調査項目になかったもの。斜線は以前の項目で上位になかったもの。

【質問6】活用場面：「質問5」で「その他」を選択した場合は、箇条書きで入力してください。

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
<ul style="list-style-type: none"> ・外国人児童生徒教育 ・初任者研修 ・初任研、2年目研、3年目研、中堅研、ステージアップ研、帰国・外国人児童生徒等教育関係者研修会 ・複式学級指導研修、事務職員研修 ・主権者教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人生徒教育 ・美術等の免外教科研修 ・帰国・外国人児童生徒等教育関係者研修会 ・いじめ等に係るケース会議で活用している。 ・職場研修の資料として活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭の研修 ・基本研修 ・分掌業務 	

【質問5】・【質問6】考察

小・中・高等学校では「教科研修」及び「ICTを活用した教科指導」に対する回答が多い。また、どの校種でも、「特別支援教育」及び「教育相談」に対する回答が多い。この傾向を踏まえ、研修内容の選定をしていく。

【質問7】活用場面：「質問4」で「あまり活用していない」「活用していない」と回答した場合のみ、お答えください。当センターで研修した内容を活用していない理由は何ですか。その理由を箇条書きで入力してください。（回答数の多いもの上位5項目を示す。）

回答内容	回答数	割合	R4	R2
業務の多忙や人員不足による時間確保の困難さ	17	41.5%	18.8%	2.7%
研修の不参加・機会不足	16	39.0%	18.1%	2.7%
研修内容の伝達・共有体制の不備	4	9.8%	13.0%	4.6%
地理的条件による参加の困難さ	3	7.3%	6.5%	
研修に関する情報不足	3	7.3%		

※全回答数 41 件。（高・特支は回答なし。）空欄は調査項目になかったもの。斜線は以前の項目で上位になかったもの。

【質問7】考察

集計結果から①「業務の多忙や人員不足による時間確保の困難さ」や②「研修の不参加・機会不足」が要因として上げられている。①については、例えばリアルタイム・オンライン研修を実施したり、オンデマンド研修を併用した対面研修を実施したりするなど、学校現場の現状を考慮した研修の実施方法の在り方を検討していく。②については、現場のニーズに合わせた研修日程や内容を吟味し、多くの方に参加いただけるよう改善を図っていく。

(2) 研修内容に対するニーズについて (【質問8】)

【質問8】 当センターで研修内容として取り上げてほしいこと：貴校の課題を解決するために、研修内容として取り上げてほしいことを箇条書きで入力してください。(各校種回答の多かった上位5項目を示す。)

回答内容	小		中		高		特支	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
授業における ICT 活用	63	23.6%	31	21.4%	26	40.0%		
特別支援教育	57	21.3%	28	19.3%	14	21.5%	3	18.8%
生徒指導・教育相談・不登校	54	20.2%	32	22.1%				
「個別最適な学び」と「協働的な学び」	47	17.6%	29	20.0%				
複式指導・小規模校での指導	29	10.9%						
学力向上・家庭学習			12	8.3%				
授業改善・観点別評価					5	7.7%		
業務効率化					5	7.7%	2	12.5%
いじめ問題への対応					3	4.6%		
心理検査の解釈							3	18.8%
保護者・関係機関との連携							2	12.5%
カリキュラム・マネジメント							2	12.5%

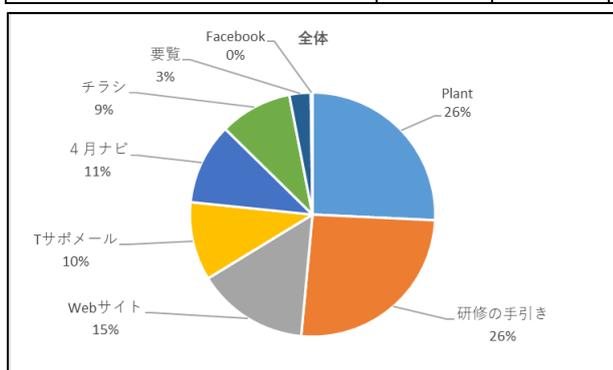
【質問8】 考察

授業における ICT 活用や特別支援教育に関する要望が多い。現場のニーズを取り入れた研修事業を進めていくことができるように、今回の調査結果を所内で共有し、現存の研修講座で対応可能なものは随時取り入れる。また、次年度に向けて、研修講座の新規、廃止の検討に活用する。

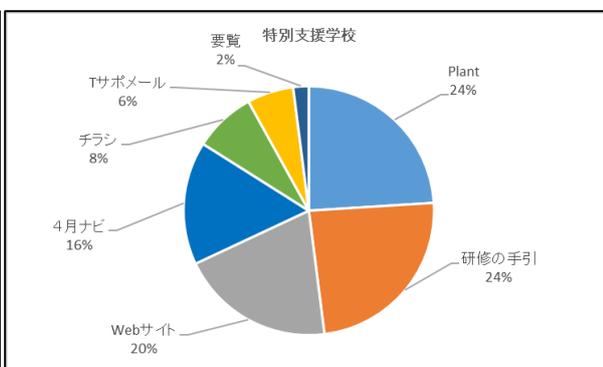
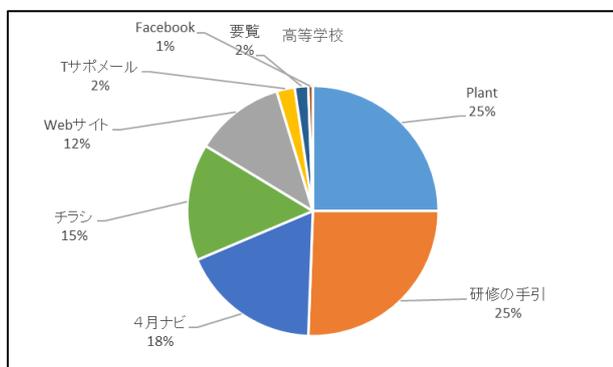
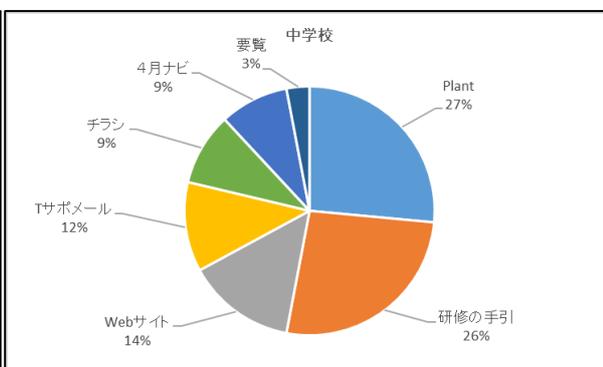
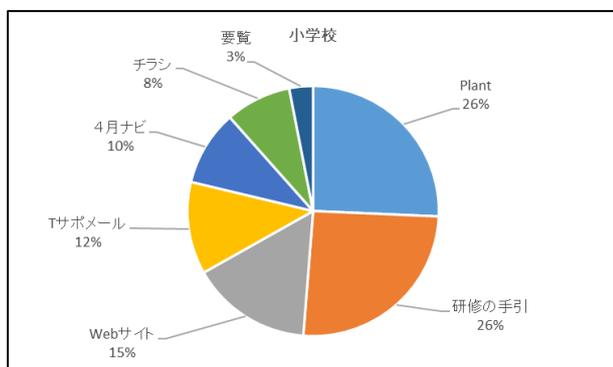
(3) 研修情報の入手方法について (【質問9】～【質問11】)

【質問9】 研修情報を入手する方法：貴校職員は当センター主催の研修講座の申込みを、どのような情報をもとに行っていますか。以下の内容から選んで回答してください (複数選択可)。

回答内容	小	中	高	特支	割合
Plant	185	107	43	12	25.7%
研修の手引き	184	107	44	12	25.7%
Web サイト	112	57	20	10	14.8%
T サポメール	86	47	4	3	10.4%
4 月ナビ	70	36	31	8	10.8%
チラシ	61	38	26	4	9.6%
要覧	22	12	3	1	2.8%
Facebook	2	0	1	0	0.2%



《校種別の割合》

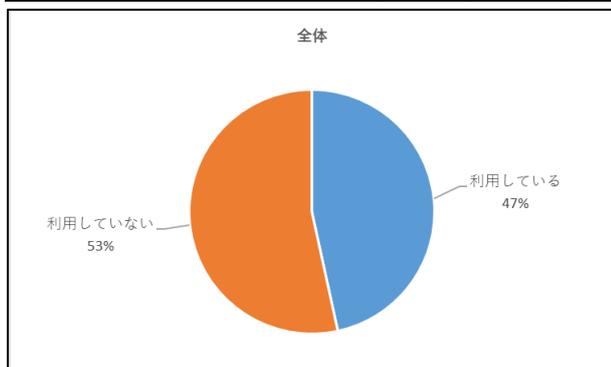


【質問9】 考察

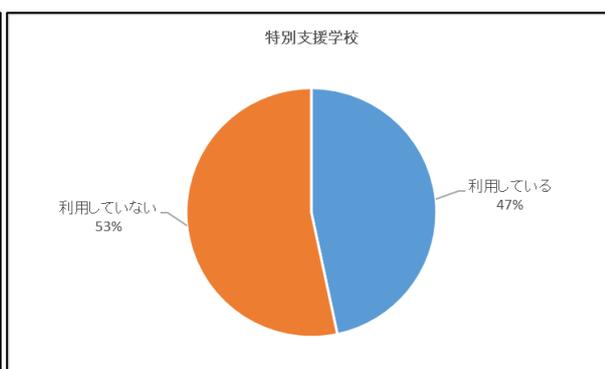
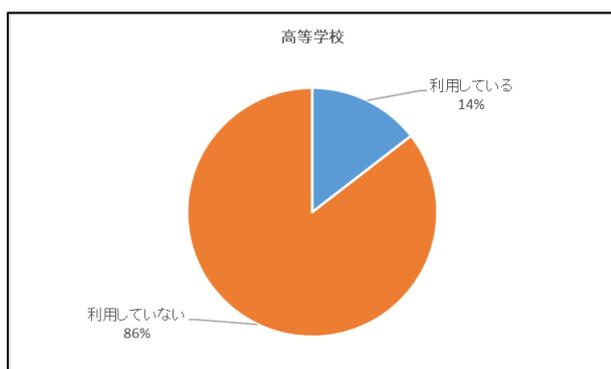
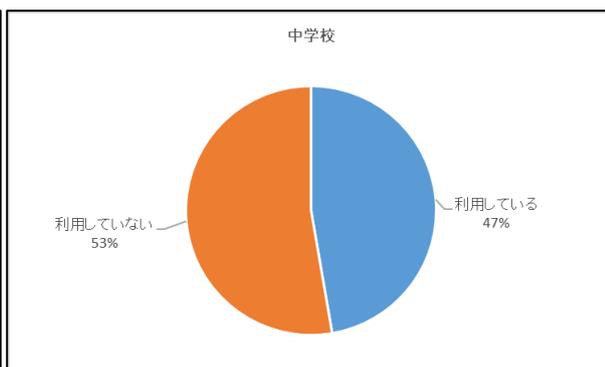
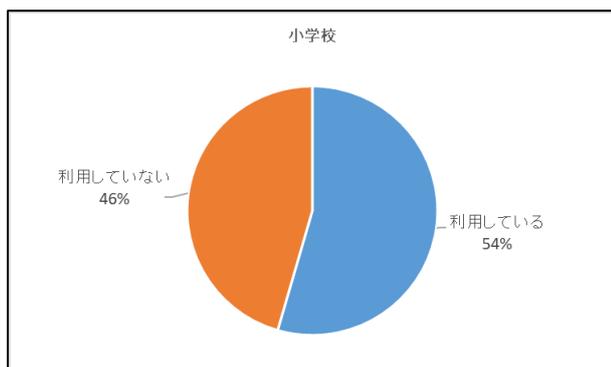
どの校種においても、25%前後で Plant、研修の手引きから情報を得ている。4月ナビや Web サイトから情報を得ている教員もいる。小、中学校では T サポメール、高等学校ではチラシの割合も 15%ある。

【質問 10】 研修情報を入手する方法：当センターのメールマガジン（T サポメール）や Facebook を利用していますか。

回答内容	小	中	高	特支	割合
利用している	146	70	10	7	46.6%
利用していない	122	78	59	8	53.4%



《校種別の割合》



【質問 10】 考察

小学校、中学校、特別支援学校では約半数が利用しているのに対して、高等学校は 14% の利用に留まり、校種ごとの利用の割合に大きな差が見られた。T サポメールや Facebook の周知は同様に行っているため、その要因を検討していく必要がある。また、全校種においてさらに利用を促進するために、必要な内容を適切に届けることができるよう内容の見直しや改善を図り、より役立つ情報発信のツールとしていく必要がある。

【質問 11】 研修情報を入手する方法：「質問 10」で「利用している」と回答した場合のみお答えください。当センターの情報発信について、改善すべき点があれば箇条書きで入力してください。

回答内容	回答数	割合
メールマガジン（T サポメール）のレイアウトや文章量	8	10.8%
情報配信の手段（SNS の活用など）について	6	8.1%
情報の探しやすさや情報の精選について	4	5.4%
研修案内の方法について	3	4.1%
メールマガジンの配信頻度について（減らしてほしい）	2	2.7%

※総回答数は「特になし」を含め、全学校で 74 件である。

【質問 11】 センターからの回答

T サポメールについては、分量や読みやすさを精査したり、小見出しをつけたり、視覚的に情報を取得できるように改善する。研修案内の方法や配信頻度に関しては、メールという特性上、受信者が情報を選択して受け取ることはできず、すべての校種の方が受け取ることを前提に配信をしていることをご理解いただきたい。

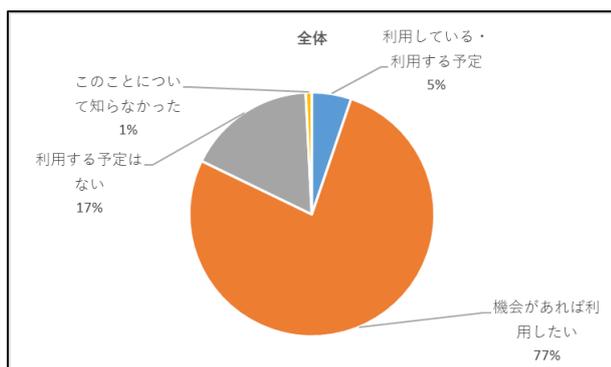
3 支援業務推進に関わる調査

(1) 相談に対するニーズについて【質問12】

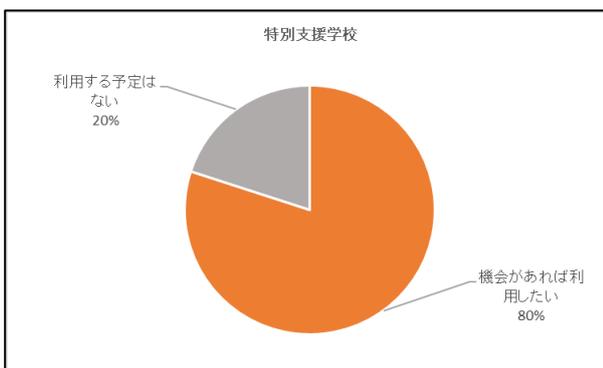
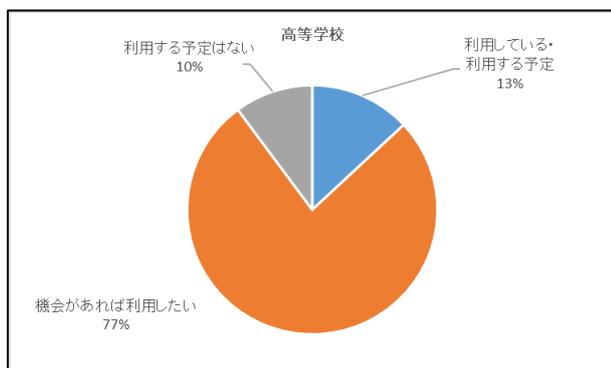
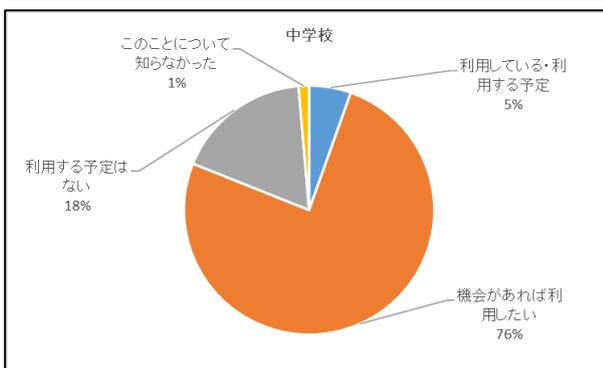
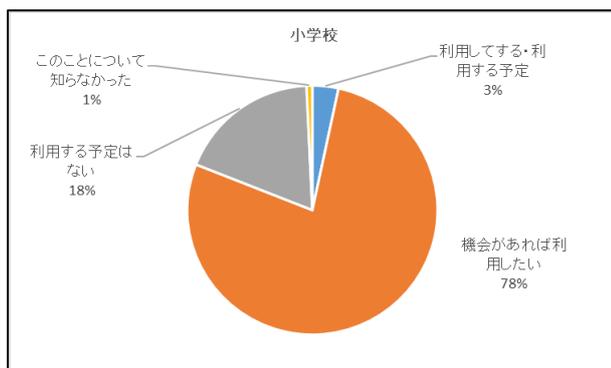
【質問12】教育支援相談：当センターでは、児童生徒、保護者及び教職員等に対して、学校生活や療育・発達に関する教育支援相談（電話相談・来所相談・訪問相談）を行っています。この教育支援相談を利用する予定がありますか。次の中から1つ選んで回答してください。

回答内容	小	中	高	特支	合計	割合	R4	R2
利用している・利用する予定	9	8	9	0	26	5.2%	9.3%	7.5%
機会があれば利用したい	208	112	53	12	385	77.0%	72.1%	66.8%
利用する予定はない	49	26	7	3	85	17.0%	17.7%	25.7%
このことについて知らなかった	2	2	0	0	4	0.8%	0.8%	

※空欄は調査項目になかったもの。



《校種別の回答》



【質問12】考察

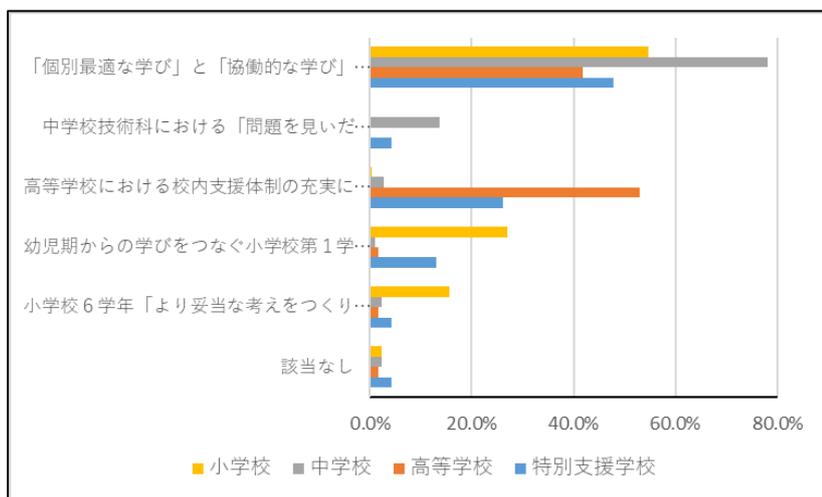
教育相談の利用について、「機会があれば利用したい」という回答が全ての校種で75%を上回っている。特に、高等学校においては、「利用している」「機会があれば利用したい」を合わせ90%に上っており、教育相談へのニーズの高さが推察される。全ての学校に特別な支援を必要とする児童生徒が在籍していることを前提に、引き続き各学校からの相談ニーズに即した支援が行えるような教育相談体制を継続する。

4 研究業務推進に関わる調査

(1) 研究成果物の活用について (【質問 13】・【質問 14】)

【質問 13】 研究成果物の活用 (令和 6 年度) : 当センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。令和 6 年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ててみたいものを選んで回答してください (複数選択可)。

回答内容	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する研究—自らの学習を調整する活動に重点を置いた授業実践を通して—	252	54.7%	143	78.1%	48	41.7%	11	47.8%	467	57.5%
中学校技術科における「問題を見だし、解決する力」を育てる題材開発と実践評価—ニーズ探究とシーズ探究に基づく新たな価値の創造を促す指導を通して—	1	0.2%	25	13.7%	0	0.0%	1	4.3%	27	3.3%
高等学校における校内支援体制の充実に関する研究—特別な支援を必要とする生徒を含む集団への多層的な支援を通して—	2	0.4%	5	2.7%	61	53.0%	6	26.1%	74	9.1%
幼児期からの学びをつなぐ小学校第 1 学年生活科の授業実践—発達や学びの接続の理解を深める保育体験を通して—	124	26.9%	2	1.1%	2	1.7%	3	13.0%	131	16.1%
小学校 6 学年「より妥当な考えをつくり出す力」を育成する理科授業の在り方に関する研究—理科の見方・考え方を働かせ、問題を追究する活動を通して—	72	15.6%	4	2.2%	2	1.7%	1	4.3%	79	9.7%
該当なし	10	2.2%	4	2.2%	2	1.7%	1	4.3%	34	4.2%

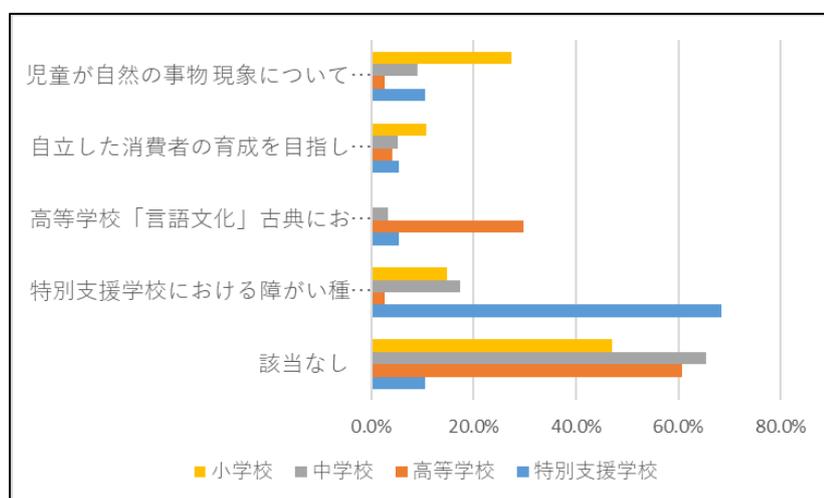


【質問 13】 考察

全校種で、中・高での実践例を掲載した「「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化に関する研究」への回答数が多いことから、生徒の学びをどう支援していくかに関心が高いと考えられる。また、高等学校と特別支援学校では、「高等学校における校内支援体制の充実に関する研究」への回答数が多く、多様な生徒への対応が求められていると読み取れる。今後の研究として、さらに児童生徒の学びの質をいかに保証し、教員側がいかに支援を行っていくかについて行う必要があると考えられる。

【質問 14】 研究成果の活用（令和 5 年度）：当センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。令和 5 年度の研究成果物の中で、貴校の教育活動の充実に役立ったと思うものを選んで回答してください（複数選択可）。研究成果物の詳細は総合教育センターのホームページをご覧ください。

回答内容	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
児童が自然の事物 現象についての問題を科学的に解決する授業の在り方に関する研究－問題解決の活動の充実を通して－	84	27.3%	14	9.0%	2	2.7%	2	10.5%	102	18.3%
自立した消費者の育成を目指した小学校家庭科「C消費生活 環境」の学習に関する研究－児童の実態や地域に応じた題材の構成を通して－	33	10.7%	8	5.1%	3	4.1%	1	5.3%	45	8.1%
高等学校「言語文化」古典における生徒が自分の考えを形成する授業に関する研究－複数のテキストを読み比べ、比較して論じる言語活動を通して－	0	0.0%	5	3.2%	22	29.7%	1	5.3%	28	5.0%
特別支援学校における障がい種に応じた専門性の向上と指導の充実に関する研究－自立活動指導資料（病弱）の作成を通して－	46	14.9%	27	17.3%	2	2.7%	13	68.4%	88	15.8%
該当なし	145	47.1%	102	65.4%	45	60.8%	2	10.5%	294	52.8%



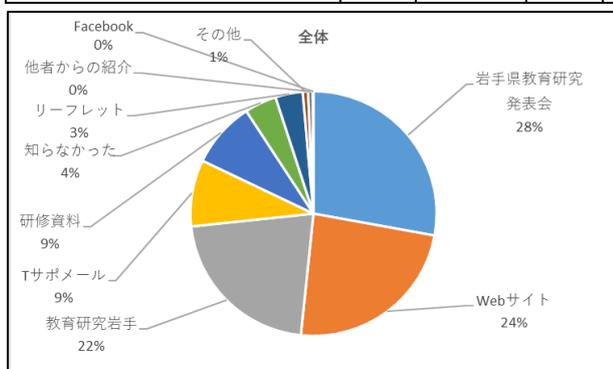
【質問 14】 考察

特別支援学校では、教育活動全般に活用できる自立活動指導資料（病弱）に関する研究が役立ったとの回答が多い。一方で、小学校、中学校及び高等学校では、「該当なし」との回答数が多い。このことから、それぞれの校種の教育事情に沿った研究を充実させるとともに、過年度の研究についてより一層周知を図っていく必要があると考えられる。

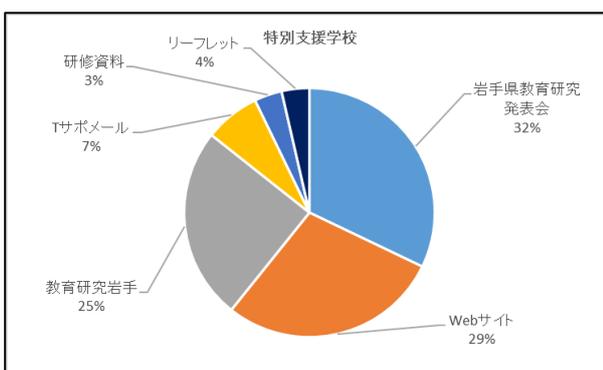
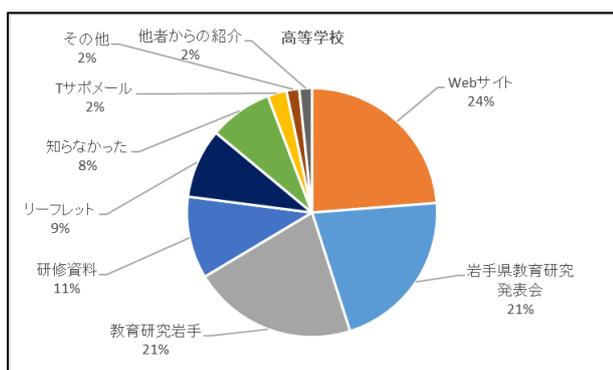
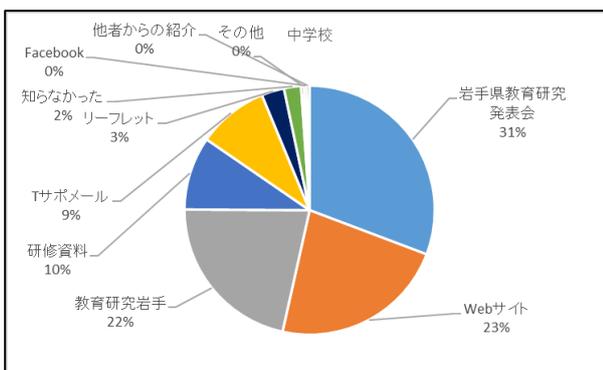
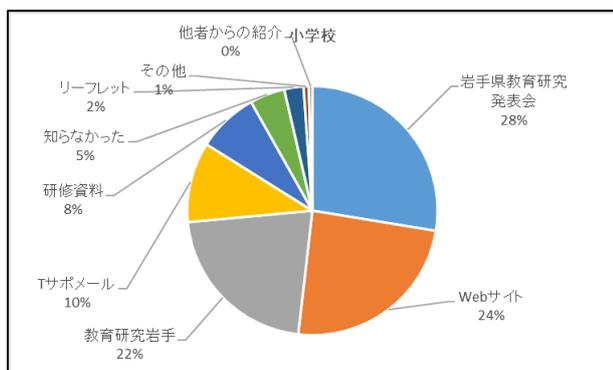
(2) 研究成果物の入手方法について【質問15】・【質問16】

【質問15】研究成果物の入手：「質問13」及び「質問14」の研究成果物を、どのような方法で知りましたか。以下の項目から、知った方法を選んで回答してください（複数選択可）。

回答内容	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
岩手県教育研究発表会	122	27.6%	84	30.8%	26	21.3%	9	32.1%	241	27.9%
教育研究岩手	96	21.7%	59	21.6%	26	21.3%	7	25.0%	188	21.7%
Webサイト	107	24.2%	62	22.7%	29	23.8%	8	28.6%	206	23.8%
研修資料	35	7.9%	26	9.5%	13	10.7%	1	3.6%	75	8.7%
Tサポメール	46	10.4%	25	9.2%	3	2.5%	2	7.1%	76	8.8%
Facebook	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
リーフレット	11	2.5%	8	2.9%	11	9.0%	1	3.6%	31	3.6%
他者からの紹介	2	0.5%	1	0.4%	2	1.6%	0	0.0%	5	0.6%
その他	3	0.7%	1	0.4%	2	1.6%	0	0.0%	6	0.7%
知らなかった	20	4.5%	6	2.2%	10	8.2%	0	0.0%	36	4.2%



【校種別の回答】



【質問 16】研究成果物の入手：「質問 15」で「その他」を選択した場合は、箇条書きで入力してください。

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
<ul style="list-style-type: none"> ・本校の職員が研修に携わっている内容であるから ・本校が研究協力校だったので ・本調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・今この調査に回答しながらあることに気づきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は研究協力校であり、教育センター所員の方から直接いただいた情報による。 ・質問 13③の実施校である。 	

【質問 15】・【質問 16】 考察

研究成果物の情報の入手方法については、全ての校種で上位 2 項目の「センターWebサイト」と「岩手県教育研究発表会」を合わせると 5 割以上を占めており、研究成果物の主な入手方法となっている。小学校、中学校、特別支援学校では「センターWebサイト」、高等学校では「岩手県教育研究発表会」の割合が 2 番目に多く、続いて、「教育研究岩手」の割合が多い。「T サポメール」と回答した割合が、高等学校（3%）に比べて、小学校、中学校、特別支援学校（小 10%、中 9%、特 8%）で多く、高等学校では「研修資料」から情報を得ると回答した割合（12%）が他校種に比べて多い。今後も、「教育研究発表会」「Webサイト」での周知を図りながら、「T サポメール」や「研修資料」を活用してセンターから情報を発信し、研究成果物を活用を促す。

5 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望（【質問 17】）

【質問 17】 ご意見・ご要望：当センターの業務全般にご意見、ご要望等がありましたら、入力してください。

【小学校】

1 情報発信や周知の方法について（9件）

- ・Teacher サポートメールが、もう少し読みやすい様式であればよいと思います。
- ・日常業務の中で、定期的に（こまめに）貴センターのwebサイトを閲覧することがなかなかできないので、メールマガジン等で情報を発信していただけるのは大変ありがたいです。
- ・教育センター事業全般についての周知が足りないと感じている。研究をしている所、というイメージが強い。必要とする研修等に、どんな資料があり、どの程度の依頼ができるか、どの程度対応いただけるのかなどを考えてしまい、活用が進んでいない。

2 研修のオンライン化・遠隔地開催について（5件）

- ・オンラインやオンデマンドで受けられる研修を増やしてほしい。気になる研修があっても、往復に時間がかかるため参加できないことが多い。
- ・どの研修においてもいつでも視聴できると、都合のいい時間に個人研修ができるし、校内研修においても活用できる。
- ・県北にいと教育センターで魅力的な講座や研究発表会があってもなかなか参加できない状況です。オンライン研修の充実や、あるかもしれませんが、校内研修でいつでも使えるような動画コンテンツの充実を期待したいです。

3 センターの支援体制や連携強化について（4件）

- ・市町村の教育研究所主催の研修会を教育センターが支援する仕組みがあればいい。
- ・教育支援相談の訪問相談について。訪問要請したところに来るだけでなく、旧教育事務所単位で訪問相談所的なものがあればありがたい。
- ・本校で、本年度、センターの先生にゲーム障害、ネット依存症を防止するための講演をお願いしたところ、担任がT1として授業を行う指導スタイルを勧められ、授業づくりの段階からサポートしますというご助言をいただきました。研修の手引き等では知り得ないサポート体制を知る機会となりました。

4 研究成果や資料の公開について（3件）

- ・せっかくの研究なので概要版を各校にメール添付で送付し、目に触れられるようにしてはいかがでしょうか。
- ・学習指導案等更新をぜひお願いします。
- ・2月に行われる教育研究発表会の資料を参加者以外にも開示して、いつでも閲覧できるようにしていただけるとありがたいです。

5 研修や研究の内容について（3件）

- ・ICTについてのニーズが高いが、レベルの差が大きいので、初心者コースとか、上級者レベルとかあるいは何ができるようにするコースなど、選択肢が広がると受講しやすくなるとおもいます。
- ・大きな時代、社会からの方向に即した研究だけでなく、岩手独自、岩手ならではの課題にも取り組んでほしい。例えば、少人数・複式の授業。
- ・Teacher サポートメールには、目を通しています。今後も、教育現場のニーズに合うテーマの紹介をお願いします。

【質問 17】 センターからの回答（小学校）

研修内容に応じた研修形態を吟味するとともに、申込み方法や締切日の周知を図るために、情報を整理する。また、より現場のニーズに応じた研修を展開するために、随時研修や要請研修の活用を発信していく。学校現場で研究がより活用されるよう、普及の方法をさらに検討していく。

【中学校】

- 1 研修の実施方法や内容について(6件)
 - ・いつでもどこでも、学びたいときに学べるシステムにしていけると、もっと利用する先生方が増えるのではないかと
思う。
 - ・参集型だけでなく、リモート研修を増やしていただきたい。
 - ・センターでのオンライン授業コンテンツなどが整備されると良い。
- 2 研究成果や研修内容等の情報発信・周知について(4件)
 - ・研修や行われている取組、研修生などにおける成果などを探しやすく、わかりやすくしていただけるとより活用させて
いただけたと思います。
 - ・どんな研究が行われているか、現場に伝わりにくい。研究内容の紹介や相談ができることについて、メールや文書での
連絡回数が増えると活用が進むのでは。
 - ・どの先生が研修の該当者になっているか、分かりにくい。
- 3 校務支援ソフト導入のサポートについて(1件)
 - ・県総合教育センターの業務ではないかもしれませんが、校務支援ソフト導入におけるサポートがもう少し手厚くあれ
ば、学校現場は助かったと思われます。本校は8年度導入なので問題はないと思いますが、今年度導入した学校は苦
労したようでした。

【質問 17】 センターからの回答（中学校）

教科研修への細かいニーズにさらに対応できるよう内容や研修形態を吟味していく。多忙な現場の状況を鑑みて、オンデマンドやリモートの研修の充実を検討していく必要がある。随時研修や要請研修の活用をすすめていくと共に、各種情報の周知を工夫する。

【高等学校】

- 1 研修申込システム（Plant）や事務手続きについて（3件）
 - ・Plant は扱いづらい。研修申込時に業務が増える。本人のみで申し込みが完了する形で問題ないと思う。
 - ・研修申込のPlant は操作が煩雑で扱いにくい。研修申込の承認ボタンも面倒である。従来の普通の形に戻して欲しい。
研修記録を教員自身に任せるのは無理がある。県で記録を残しておくべきものだと感じる。
 - ・Plant について活用の周知をさらにしていただけると助かります。
- 2 訪問型研修・出前研修の実施について（3件）
 - ・教育センターに教員を集めて一斉授業スタイルで研修を行うことは最小限にとどめ、研修指導主事が各学校を訪問してその学校の目的に応じた教員支援をしたり、探究活動の成果発表会に参加して指導助言を行ったり等、そういう形での研修指導主事であってほしい。
 - ・本校は、センターへの研修参加のために時間のかかる距離にあり、居住も久慈市や八戸市などでなかなか（気軽に）参加できないのが要因と考えられます。もし、可能であれば…なのですが、各地区で出前研修講座のような企画があれば、管理職としても研修への参加を促しやすいと考えたりしました。
 - ・要請研修で本校においでいただき、研修会を開いていただき、ありがとうございました。今後、教育支援相談等でもお世話になるかと思います。よろしくお願いいたします。

3 総合的な探究の時間への支援について（2件）

- ・総合的な探究の時間の構成等に苦しんでいる学校が多いので、その相談拠点のようなものができるとうれしいかもしれません。
- ・探究活動の成果発表会に参加して指導助言を行ったり等、そういう形での研修指導主事であってほしい。

4 不登校生徒支援の充実について（1件）

- ・ふれあいルーム等の不登校生徒支援を以下の①～⑤のとおり充実してほしい。①利用したい生徒や保護者が気軽に利用できるように利用手続きを簡略化、②専門支援スタッフの増員、③家庭に引きこもっている生徒への遠隔授業の実施、④在籍する高校と連携した進路相談、⑤不登校生徒を持つ保護者の相談体制の充実。以上①～⑤の取組は、今後の日本を担う若者を育成する上で非常に重要ですが、国からの予算的裏付けがないと実施が困難なものもあります。現在の予算で実現可能なものから早期に実施してほしいです。県立の教育センターとして、教員研修だけを実施するのではなく、困難を抱えた生徒への専門家による直接支援を充実していただければ学校現場としては非常に助かります。

【質問 17】 センターからの回答（高等学校）

Plant については、円滑な運営ができるよう今後更に改善を図る。研修については、遠隔地からでも参加しやすい研修の在り方が求められている。センターでは、要請研修や、随時研修を広く行っている。主体的に学ぼうとする教職員を支援できるようにこれからもニーズに合わせた研修を実施していく。ふれあいルーム等の活用について、不登校生徒支援の充実を求める具体的な要望を参考に、生徒支援及び学校の教育相談体制の充実を図っていく。

【特別支援学校】

1 情報提供について(1件)

- ・T サポートメールが導入されたことでセンターの情報に触れやすくなったと感じている。今後もぜひ、配信を続けてほしい。

2 研修について(1件)

- ・引き続き広く研修機会の提供をお願いします。

3 図書室について(1件)

- ・書架の一層の充実と、県内教職員による積極的な活用の促進

【質問 17】 センターからの回答（特別支援学校）

現場のニーズに応じた研修を実施していくために、内容に応じた研修形態や開催時期等を検討する。また、Tサポートメールの充実を図るとともに、閲覧室へも気軽に足を運んでいただけるよう、蔵書紹介を盛り込むなど、引き続き情報の発信と共有に努める。

Ⅲ 岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査・分析（幼稚園等）

1 回答者に関する調査（【質問1】～【質問3】）

【質問1】園名：貴園の園名を入力してください。

【質問2】職名：回答者の職名・分掌を次の中から1つ選んで回答してください。

回答内容	回答数	割合	R4	R2
園長	136	68.0%	60.2%	38.7%
副園長・教頭	32	16.0%	16.1%	36.8%
主任教諭・主任保育教諭	25	12.5%	18.0%	24.5%
その他	7	3.5%	5.6%	

※斜線は回答がなかったもの。

【質問3】職名：「質問2」で「その他」を選択した場合には、園内での職名又は分掌の名称を入力してください。

回答内容	回答数
主任保育士	3
事務長	1
事務局長	1
事務	1
事務担当	1

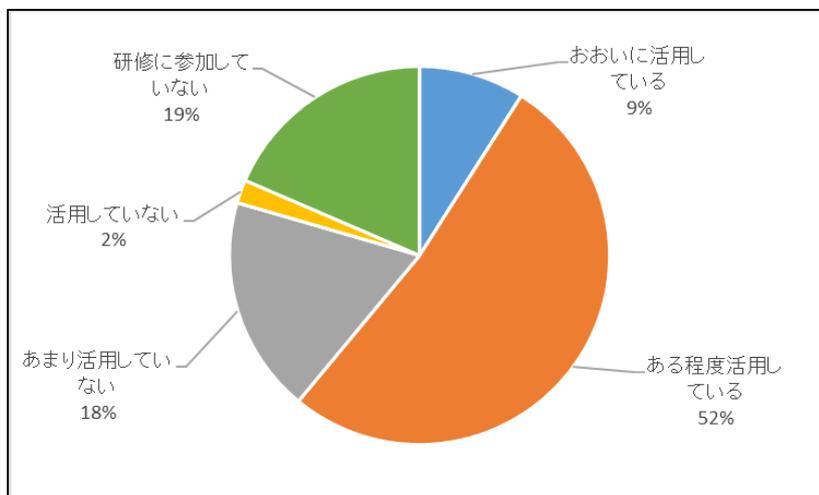
2 研修業務推進に関わる調査

(1) 研修講座の活用について（【質問4】～【質問7】）

【質問4】 研修内容の活用：回答者からみて、貴園職員が当センターで研修した内容をどの程度活用していますか。次の中から1つ選んで回答してください。

回答内容	回答数	割合	R4	R2
おおいに活用している	18	9.0%	9.3%	9.4%
ある程度活用している	104	52.0%	45.3%	50.0%
あまり活用していない	37	18.5%	32.9%	31.1%
活用していない	4	2.0%	12.4%	9.4%
研修に参加していない	37	18.5%		

※空欄は調査項目になかったもの。



【質問4】 考察

「おおいに活用している」「ある程度活用している」割合が、6割を超え、研修に参加した多くの研修者が研修内容を自園で活用している。一方で、2割程度の園が研修自体に参加できていない。また、研修内容を得られず、活用もしていない。

【質問5】 活用場面：「質問4」で「おおいに活用している」「ある程度活用している」と回答した場合のみ、お答えください。どのような研修内容を貴園で活用していますか。以下の内容から選んで回答してください（複数選択可）。（回答数の多かった上位5項目を示す。）

回答内容	回答数	割合	R4
幼保小接続（幼保小の架け橋プログラム）	90	19.8%	8.0%
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	76	16.7%	4.5%
幼児教育の動向	56	12.3%	
指導計画の作成	30	6.6%	
幼児期の特別支援教育	28	6.2%	5.7%

※空欄は調査項目がなかったもの。斜線は以前の項目で上位になかったもの。

【質問6】 活用場面：「質問5」で「その他」を選択した場合は、簡条書きで入力してください。

- ・ 幼児教育アドバイザー
- ・ 園内研修、会議等で共有し日々の保育や保護者対応などに活かしている
- ・ 保育研究大会の資料作りのために、ご相談いただきお世話になりました。
- ・ 子どもへの接し方・言葉掛け
- ・ 架け橋会議の時
- ・ 指導計画をたてる
- ・ 要録記入
- ・ 未満児保育の意義、環境の作り方、幼児理解、主任保育士等の園のリーダー保育士のあり方、人材育成の方法
- ・ アドバイザー研修

【質問5】・【質問6】 考察

活用されている研修講座の内容の中で最も多く挙げられているのは、幼保小接続（幼保小の架け橋プログラム）であり、次いで「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が挙げられている。幼児教育と小学校教育の円滑な接続が求められる一方で、その具体的な方法については現場の課題となっている現状も伺える。また、「幼児教育の動向」「幼児期の特別支援教育」「園内研修の持ち方」などの回答も多く、令和の日本型教育で重視されている内容が積極的に活用されている。「指導計画の作成」「カリキュラム・マネジメント」「指導と評価に生かす記録」などの回答も依然として高く、内容が活用されている。今後の研修は、幼児教育の動向を踏まえ、保育の質向上を目指した現場のニーズにあった研修内容の充実を図っていく。

【質問7】活用場面：「質問4」で「あまり活用していない」「活用していない」「研修に参加していない」と回答した場合のみ、お答えください。当センターで研修した内容を活用していない又は当センターの研修に参加していない理由は何ですか。その理由を箇条書きで入力してください。（回答数の多かった上位5項目を示す。）

回答内容	回答数	割合	R4	R2
職員体制や人員不足	39	50.0%	20.8%	13.2%
日程や行事との重複	25	32.1%	16.4%	10.4%
研修内容のミスマッチ	18	23.1%		
開催場所の遠さ	13	16.7%		
他の研修への参加を優先	13	16.7%		

※回答数は78件である。R4年度以前の項目について、「職員体制や人員不足」は「園の事情」、「日程や行事との重複」は「参加する機会がない」と回答した結果である。斜線は以前の項目で上位になかったもの。

【質問7】考察

当センターの研修内容が活用されていない主な理由として、「職員体制・人員不足」「日程・タイミングの不一致」「研修会場の場所・距離」など、物理的に研修への参加が困難である点が挙げられた。また、「研修内容のミスマッチ」「他の研修・活動の優先」が理由として挙げられ、内容面での適合性が課題となっている。

就学前教育施設は設置主体や管轄が多様であるため、他団体が主催する研修も含め、各園が参加しやすく、内容のニーズに合った研修を選択している。さらに、近年の人員不足により、集合研修への参加人数や回数が限られる傾向にある。

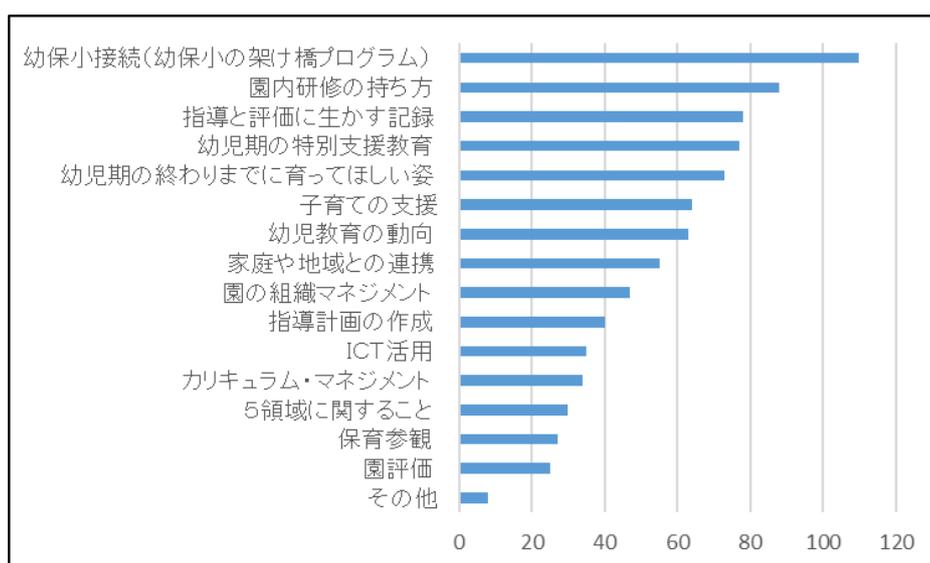
幼稚園・認定こども園・保育所等の各現場のニーズを把握し、研修の実施形態（集合研修・オンデマンド研修・オンライン研修など）に工夫を加えることで、「選ばれる研修」を目指していく。

(2) 研修内容に対するニーズについて (【質問8】・【質問9】)

【質問8】 当センターで研修として取り上げてほしいこと：貴園の課題を解決するために、研修内容として取り上げてほしいことを、以下の内容から選んで回答してください (複数選択可)。

回答内容	回答数	割合	R4	R2
幼保小接続 (幼保小の架け橋プログラム)	110	55.0%	49.7%	28.3%
園内研修の持ち方	88	44.0%	43.5%	29.2%
指導と評価に生かす記録	78	39.0%	42.9%	46.2%
幼児期の特別支援教育	77	38.5%	49.1%	34.9%
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	73	36.5%	39.1%	38.7%
子育ての支援	64	32.0%	36.0%	18.9%
幼児教育の動向	63	31.5%	38.5%	17.0%
家庭や地域との連携	55	27.5%	24.2%	9.4%
園の組織マネジメント	47	23.5%		
指導計画の作成	40	20.0%	37.9%	23.6%
ICT活用	35	17.5%	21.7%	
カリキュラム・マネジメント	34	17.0%	19.3%	9.4%
5領域に関すること	30	15.0%	18.0%	5.7%
保育参観	27	13.5%		
園評価	25	12.5%	24.2%	15.1%
その他	8	4.0%	5.0%	5.7%

※空欄は調査項目になかったもの。



【質問9】 当センターで研修として取り上げてほしいこと：「質問8」で「その他」を選択した場合は、箇条書きで入力してください。

- ・主体的保育について
- ・『指導と評価に生かす記録』について、ドキュメンテーションを活用する方法、実務例
- ・『園の組織マネジメント』について、子ども主体における子どもの姿をもとにした、職員間の情報共有や連携、新人育成について
- ・少人数園での指導の工夫と事例
- ・生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）の大切さ、メディア・スマホの正しい使い方・使わせ方
- ・心とからだの発達、運動の取入れ
- ・これからの保育園に求められること
- ・保育園の役割
- ・地域とのつながりかた
- ・保育に活かせるパワーポイントの作成の仕方
- ・運動指針に沿った遊びのあり方
- ・園児の人数減少への対策
- ・保育者からの虐待について、事例を基にしつつ、子どもの人権を守るためにどのような点に気を付け、自分たちの行動をどう振り返るか

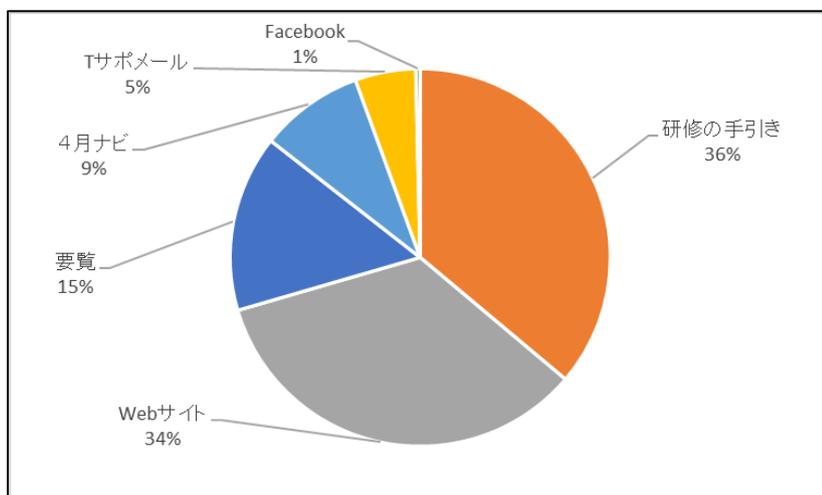
【質問8】・【質問9】 考察

研修内容として活用されている「幼保小接続（幼保小の架け橋プログラム）」は、研修で取り上げてほしいテーマとしても回答数が多く、特に関心を集めている。子どもの姿をどのように小学校へ伝えていくべきか悩んでいる園が多いことが読み取れる。また、「幼児期の特別支援教育」など、研修内容として活用されている項目と同様の内容を含む項目も、高い数値を示している。

(3) 研修情報の入手方法について (【質問 10】～【質問 12】)

【質問 10】 研修情報を入手する方法：貴園職員は当センター主催の研修講座の申込みを、どのような情報をもとに行っていますか。以下の内容から選んで回答してください (複数選択可)。

回答内容	回答数	割合
研修の手引き	98	36.2%
Web サイト	93	34.3%
要覧	41	15.1%
4月ナビ	24	8.9%
T サポメール	14	5.2%
Facebook	1	0.4%

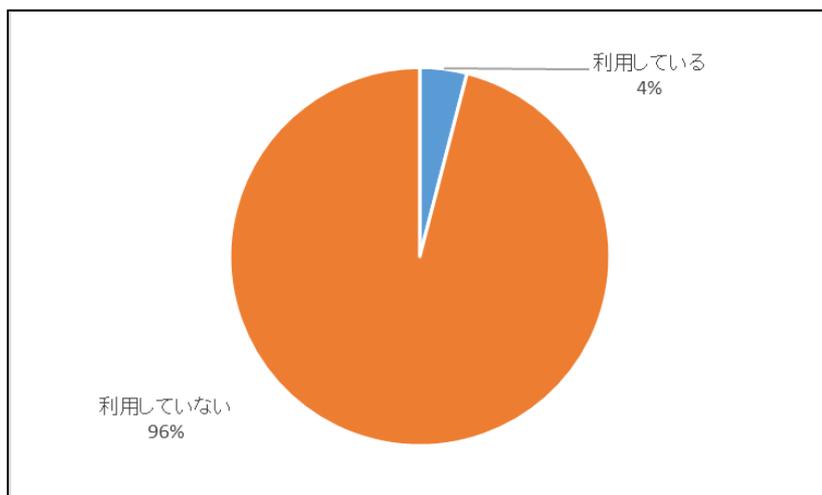


【質問 10】 考察

「研修の手引き」や「総合教育センターの Web サイト」をもとに研修講座の情報を入手している研修者が合わせて 7 割を超えている。一方で、「4月ナビ」や「T サポメール」の利用は低く、さらに周知を進めていく必要がある。

【質問 11】 研修情報を入手する方法：当センターのメールマガジン（T サポメール）や Facebook を利用していますか。

回答内容	回答数	割合
利用している	8	4.0%
利用していない	192	96.0%



【質問 11】 考察

利用している割合が 4%と、他校種に比べて低い。これは、T サポメールや Facebook についての周知が図られていないことによる結果だと考えられる。他校種の研修と同様に、さらに周知を進めていく必要がある。

【質問 12】 研修情報を入手する方法：質問 11 で「利用している」と回答した場合のみお答えください。当センターの情報発信について、改善すべき点があれば箇条書きで入力してください。

- ・ 毎回メールマガジンを読ませていただいています。とても良い内容で、職員はもちろん保護者にも知ってほしい内容です。私自身が、あわただしい毎日を送っていますので、箇条書きで送っていただくとありがたいです。
- ・ 現在の周知方法で問題ないと考えています。
- ・ 様々なことが盛りだくさん書かれていて素晴らしいと拝見しております。しかし、仕事に余裕のないときには、しっかり読まないでしまうことが幾度もあります。もう少し、簡潔にまとめていただくとより読みやすくなるのではないかと思います。文字がたくさんあると、読みたくないなと思うことがあります。

【質問 12】 考察

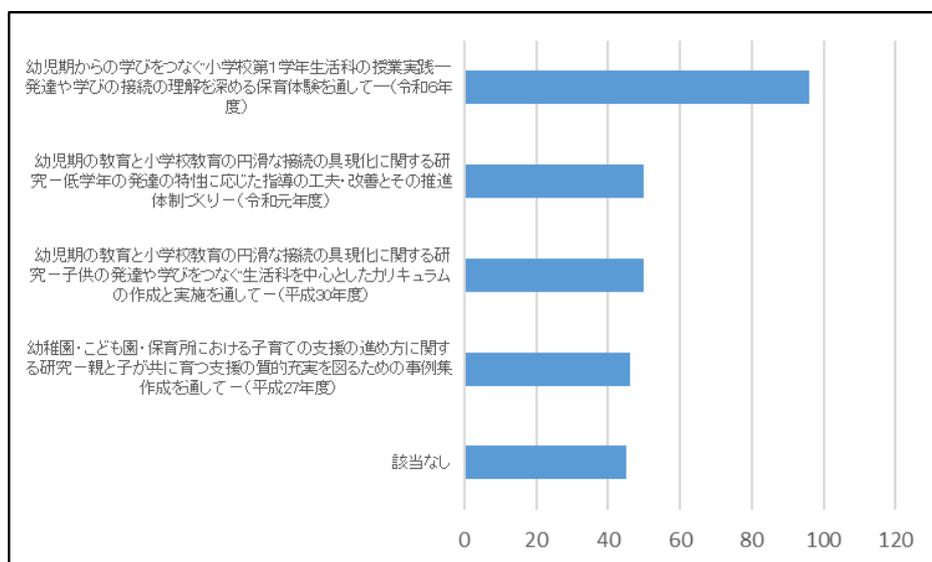
内容については、評価が高い一方、分量の多さが読む意欲を削いでいる可能性がある。見出しを冒頭につけたり、要約したり、分量を適切にする必要がある。

3 研究業務推進に関わる調査

(1) 研究成果物の活用について【質問 13】

【質問 13】 研究成果物の活用：当センターでは、県内の教育課題の解決や教職員の資質向上を目指し研究を進めています。これまでの研究成果物の中で、貴園の教育活動の充実に役立った（役立ってみたい）と思うものがありましたら、選んで回答してください（複数選択可）。

回答内容	回答数	割合
幼児期からの学びをつなぐ小学校第1学年生活科の授業実践—発達や学びの接続の理解を深める保育体験を通して—（令和6年度）	96	33.4%
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究—低学年の発達の特性に応じた指導の工夫・改善とその推進体制づくり—（令和元年度）	50	17.4%
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の具現化に関する研究—子供の発達や学びをつなぐ生活科を中心としたカリキュラムの作成と実施を通して—（平成30年度）	50	17.4%
幼稚園・こども園・保育所における子育ての支援の進め方に関する研究—親と子が共に育つ支援の質的充実を図るための事例集作成を通して—（平成27年度）	46	16.0%
該当なし	45	15.7%



【質問 13】 考察

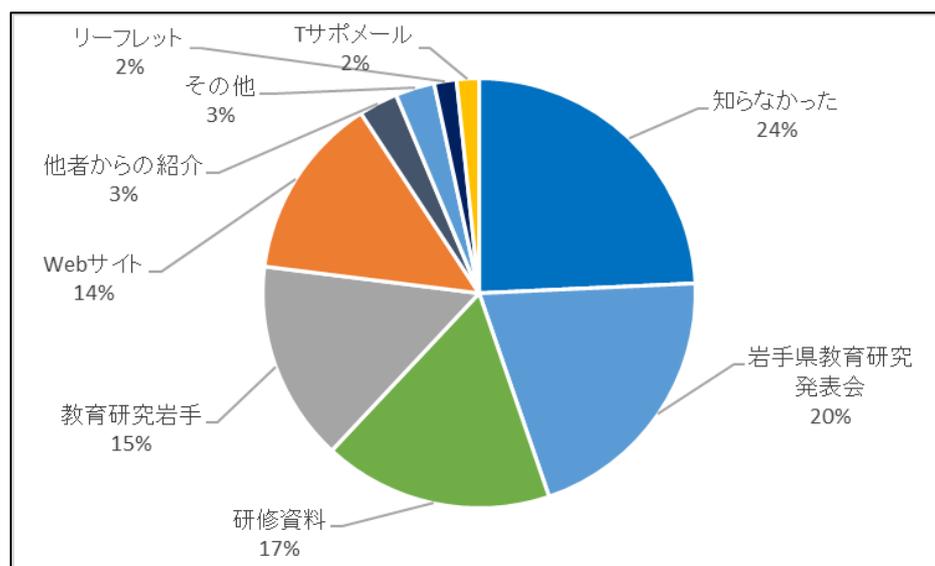
令和6年度研究に対する回答が高いことから幼稚園でも小学校での学びに、幼稚園・保育園・こども園での子どもの学びがどう生かされているかに関心が寄せられていることがわかる。センターの今後の研究として、幼保小接続の具体例としてカリキュラム作成等の実践研究を進め、周知していく。

(2) 研究成果物に入手方法について (【質問 14】・【質問 15】)

【質問 14】 研究成果物の入手：「質問 13」の研究成果物を、どのような方法で知りましたか。以下の項目から、知った方法を選んで回答してください (複数選択可)。

回答内容	回答数	割合	R4	R2
知らなかった	58	29.0%	27.6%	
岩手県教育研究発表会	49	20.5%	19.0%	35.2%
研修資料	41	17.2%	12.3%	27.8%
教育研究岩手	36	15.1%	11.7%	18.5%
Web サイト	33	13.8%	10.4%	13.0%
他者からの紹介	7	2.9%	3.1%	0.0%
その他	7	2.9%	9.2%	3.7%
リーフレット	4	1.7%	5.5%	5.5%
T サポメール	4	1.7%	1.2%	0.0%

※空欄は調査項目になかったもの。



【質問 15】 研究成果物の入手：「質問 14」で「その他」を選択した場合は、箇条書きで入力してください。

- ・このような研究がなされていたこと知らないでいました。本園でも小学校接続について悩んでいる所であり、今後の保育活動の参考になればと考え、早速、入手に努力したいと思います。
- ・自治体からの照会等
- ・盛岡市こども未来部子育てあんしん課の案内
- ・盛岡市子育てあんしん課より
- ・市からくるメールで
- ・まだ入手していない。
- ・岩手県私立幼稚園連合会からのメール

【質問 14】・【質問 15】 考察

前回の調査に引き続き、「このような研究が行われていたことを知らなかった」という回答が最も多かった。「教育研究発表会」や「研修資料」をきっかけにセンターの研究を知る方が多く、自ら参加を申込み、そこで情報を得ている方が多いことがわかる。「研修資料」「教育研究岩手」「Web サイト」から情報を得ている方の割合は前回の調査よりも増加している。引き続き、「教育研究岩手」のようにセンターから就学前教育施設に配付することでの周知を図るとともに、研修講座での紹介や活用、教育研究発表会での発表をとおして、研究成果物を活用していただけるようにする。

4 総合教育センターの研修・支援・研究業務への意見・要望（【質問 16】）

【質問 16】 ご意見・ご要望：総合教育センターの業務全般にご意見、ご要望等がありましたら、入力してください。

- 1 情報提供・周知の方法について（7件）
 - ・研究成果物をここから見る事が出来るというような案内（どこから何から入っていけばいいのかわかっていませんでした）をいただくと今よりも参考にする事が増えると思います。ぜひ今後参考にさせていただきながら職員の資質向上に努めていきたいと思ひます。
 - ・幼稚園・保育園・認定こども園向けの研修会がありましたら、メールでお知らせ頂けると、助かります。
 - ・保育の質の向上のため、幼稚園の公開保育等の情報が分かれば、保育園にも教えていただきたいです。
- 2 研修内容について（6件）
 - ・3歳未満児の保育内容に関する研修（離乳食や発達に必要な保育内容などについて）も取り入れてほしい。
 - ・「岩手県園長等運営管理協議会」はこども家庭庁など国の動向など情報を把握することができて、有意義な会議でした。
 - ・虐待や、保護者支援に関する研修を取り上げて欲しい。
- 3 研修の開催形式（オンライン化）について（5件）
 - ・オンラインやオンデマンドなどの活用も視野に入れながら、研修時間の確保に努めたいと感じた。
 - ・Zoomでの演習会と、録画での再生を繰り返す研修があればと思ひます。
 - ・興味がある研修がたくさんあるが、研修場所が遠く参加出来ずにいるため、近くでの開催やウェブ開催も検討をお願いします。
- 4 研修参加の難しさ（人員不足等）について（5件）
 - ・保育所は年末年始・休日・祝日以外開所して保育業務を行っているため、研修に参加するためには勤務シフト調整などに苦勞している現状も考慮していただきたいと思ひます。
 - ・ただ、人手不足が蔓延しており、新任研修などの複数日にまたがる研修を受講させることも（極力善処するものの）、断念せざるを得ないのが現状であるのも原因の一つであると感じている。
 - ・子供の人数が少ないと職員の人数が少なく、それぞれが休みを希望すると働き方改革を推奨される現在では、希望通りの休みを取らせてあげる社会となっています。
- 5 研修の開催場所・交通手段について（4件）
 - ・開催開場までの交通機関を掲載して頂ければありがたいです。（道路状況や車の運転が自信がない時）参集研修会に参加したいです。最寄りバス停など表示してもらえばいきやすいです。
 - ・盛岡地域でも開催して下さると参加しやすく、学ぶ機会が増えるのではと思ひます。
 - ・講師先生が、盛岡においで頂けますと自主研修でも参加しやすくなると思ひます。

【質問 16】 センターからの回答

「1 情報提供・周知の方法について」では、研修や研究の情報を入手しにくいという意見が多かった。就学前教育施設は、他の校種と研修の申込方法が違い、申込みで戸惑う研修者も多い。加えて、研修の手引きが渡っていない施設もあるので、研修の情報が手に入りやすい状況とはいえない。今後は、研修案内の普及の仕方を工夫することや研究成果物等の情報の入手の仕方をわかりやすく提示していく。「2 研修内容について」では、「こども家庭庁の動向」「3歳未満児の保育内容」などが挙げられ最近の国の動向に関わる研修内容を求める声が挙がっている。「3 研修の開催形式について」「4 研修参加の難しさについて」「5 研修の開催場所・交通手段について」では、いずれも多忙や遠方であることから、研修に参加したくてもできないという意見が多く見受けられる。研修の形態や時期について検討していく。

令和6年度
岩手県立総合教育センターの業務推進に関する調査結果
～現場に役立つセンターを目指して～



岩手県立総合教育センター 2025.6